

【ガイドラインの変更について】

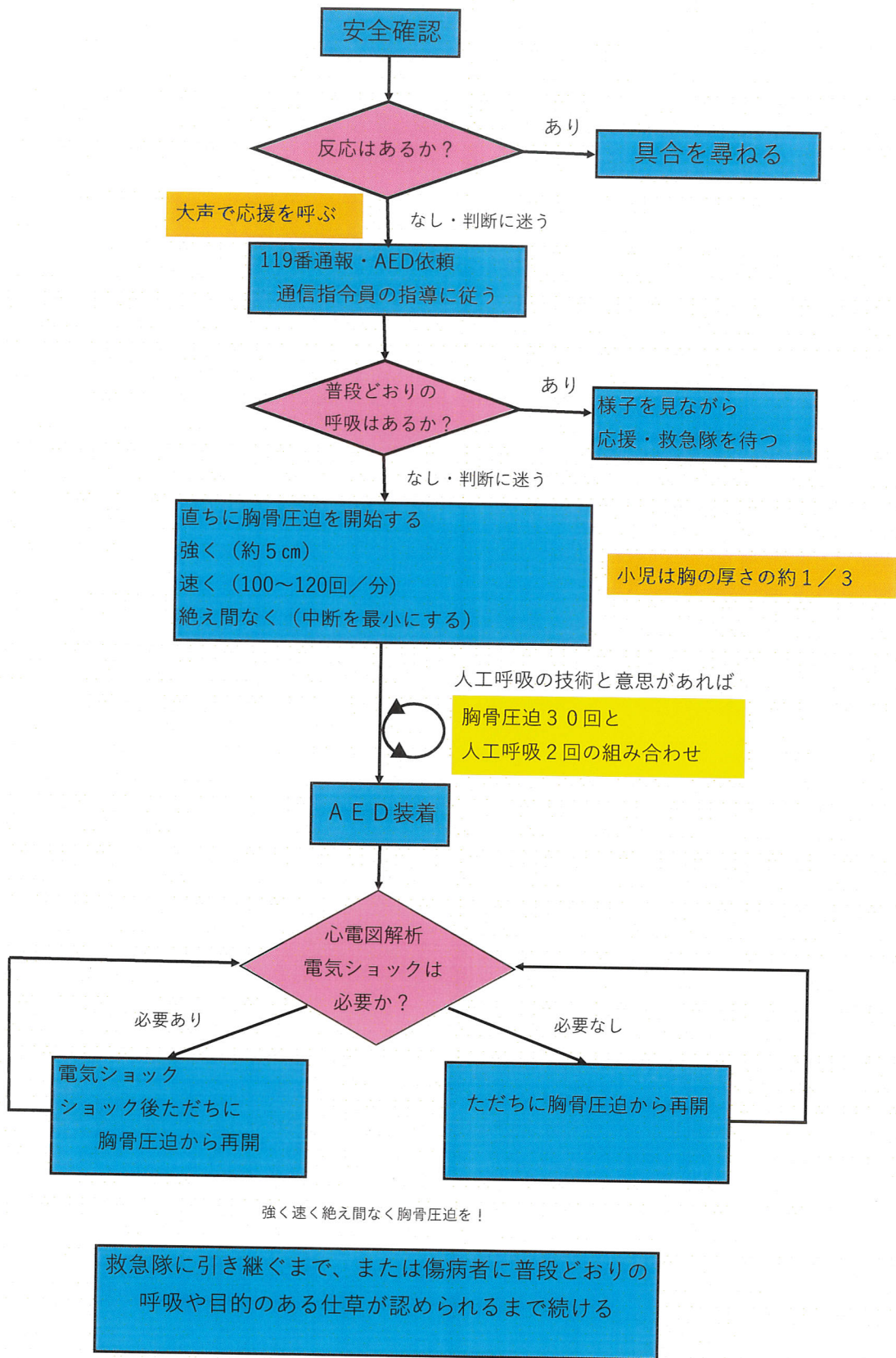
救急蘇生法の指針が、2015 から 2020 へと更新されました。

ガイドラインは5年ごとに改訂されています。

過去に救命講習を受講された経験のある方は、以前と内容の異なる部分がありますので注意して下さい。

【ガイドライン 2020 の主な変更点】

- ①倒れている人を発見したときに、「反応がない」もしくは「判断に迷う」、「分からない」場合には、心停止の可能性ありとして行動します。
- ②119 番通報の時に電話のスピーカー機能を活用すれば、通信指令員の指示を受けながら心肺蘇生を行うことができます。
- ③呼吸の確認と心停止の判断について、普段どおりの呼吸か「判断に迷う」もしくは「分からない」場合も心停止と判断して心肺蘇生法を開始してください。
- ④AEDについて、モード・パッドの名称が変更されました。
 - ☆ 小児用モード → 未就学児用モード
 - ☆ 小児用パッド → 未就学児用パッド
 - ☆ 成人用パッド → 小学生～大人用パッド
- ⑤2021年7月に認可された、オートショックAED（ショックボタンを有さない自動体外式除細動器）について新たに記載されています。
- ⑥気道異物除去において、「反応がある」もしくは「咳をさせても異物が出ない」場合は、まずは背部叩打法を行い、効果が無ければ腹部突き上げ法を行います。
- ⑦新型コロナウイルス流行期に救命処置を行う場合の対応が新たに記載されています。



AED の使い方

AED が届いたら、すぐに使う準備に移ります。

救助者が2名以上いるときは、心肺蘇生を中断することなく継続しながら操作を行ってください。

AED を傷病者の頭の近くに置くと、操作がしやすくなります。



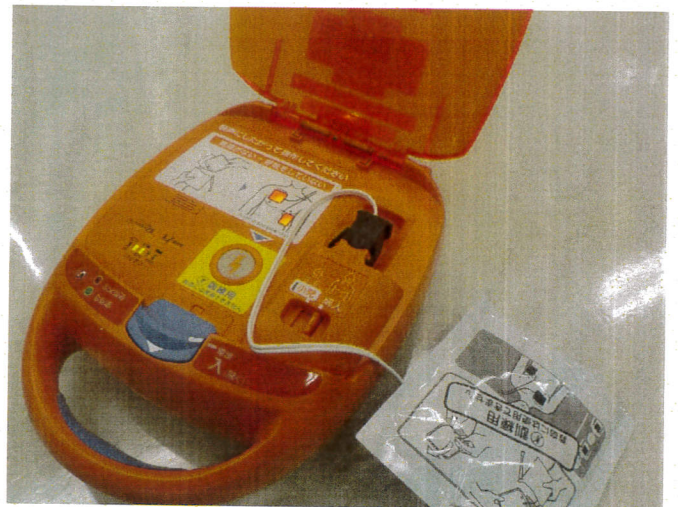
①電源を入れ、音声メッセージに従って操作をします。

音声の他に、文字や画像を表示する機種も存在します。

電源は、電源ボタンを押すタイプと、蓋を開けることで自動的に電源が入るタイプのものがあります。



電源ボタンを押すもの



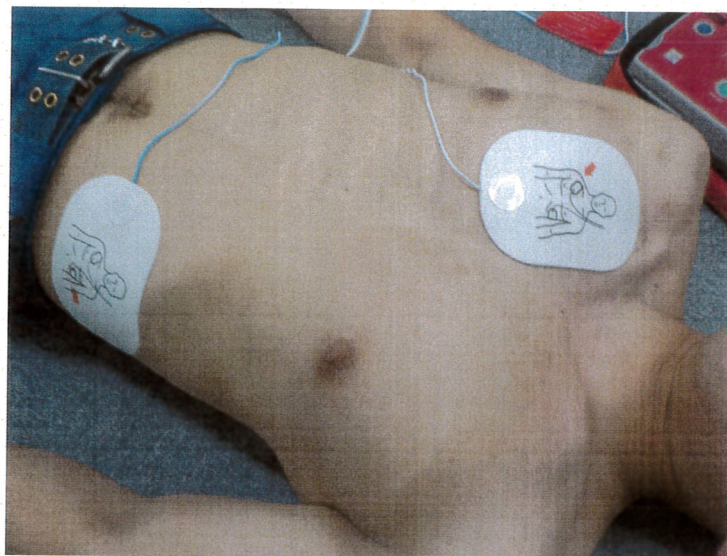
蓋を開けると自動で電源が入るもの

②電極パッドを貼るために胸をはだけます。

胸をはだけるのが難しい時は、ためらわずに衣服を切ります。

③AED のケースに入っている2枚の電極パッドを袋から取り出し、描かれているイラストのとおり肌へ貼り付けます。

貼り付けるときは保護シートから1枚ずつ剥がして貼るようにし、しっかりと肌に密着させます。

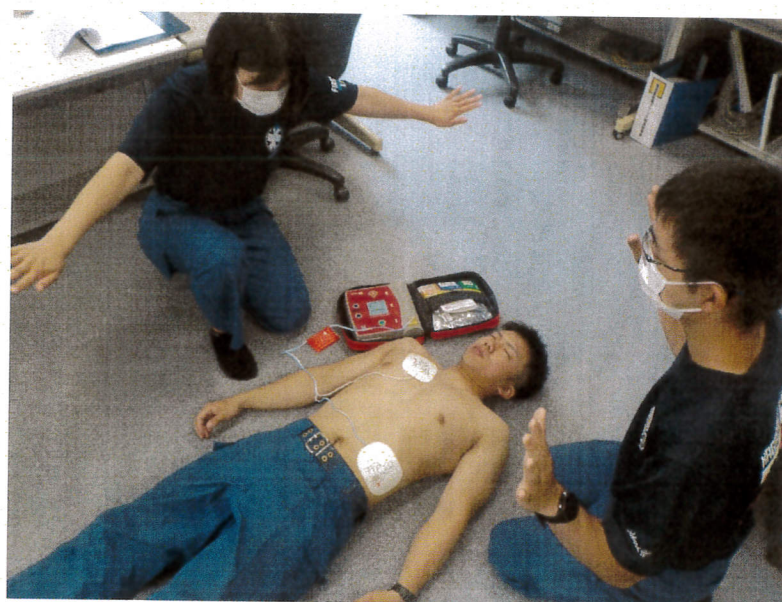


④電極パッドのプラグを AED に差し込みます。

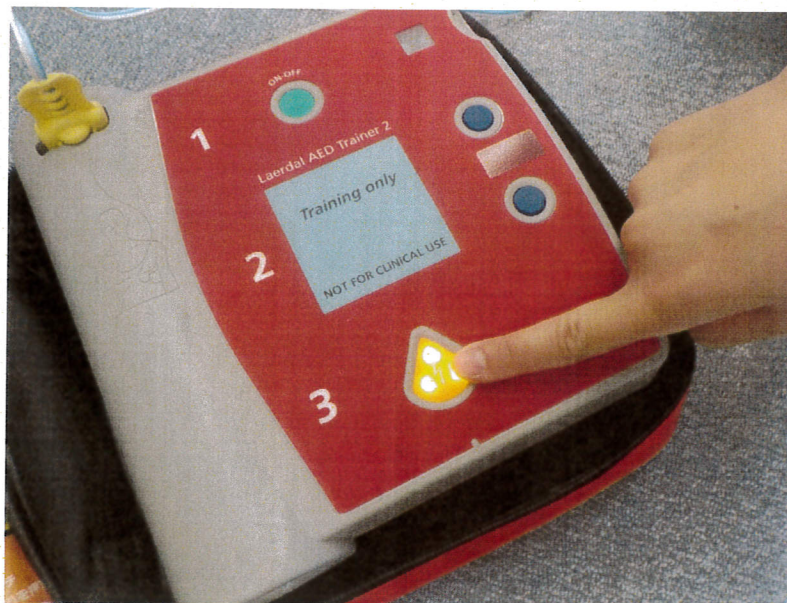
機種によっては初めから AED と電極パッドが接続されているものもあります。

⑤電極パッドが貼られると、AED が「心電図を解析中です、体から離れてください」等の音声メッセージと共に、心電図の解析を始めます。

周囲の人にも傷病者から離れるよう伝え、誰も体に触れていないことを確認しましょう。体に触れていると、心電図の解析がうまく行われな可能性がります。



- ⑥ AED は心電図を自動で解析し、電気ショックが必要な場合には、「ショックが必要です」等の音声メッセージと共に自動的に充電を開始します。充電が完了すると、連続音やショックボタンの点灯と共に「ショックを実行します、ボタンを押してください」等、電気ショックを促すメッセージが流れますので、指示のとおりショックボタンを押して電気ショックを行います。オートショック AED (ショックボタンを有さない自動体外式除細動器) の場合には、ショックボタンを押す操作はありません。



- ⑦ 電気ショックを行った後は、ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生を開始します。「心臓マッサージと人工呼吸を開始してください」等の音声メッセージが流れますので、指示に従ってください。
- ⑧ 「ショックは不要です」という音声メッセージが流れた場合には、ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開します。
- ⑨ AED は2分ごとに心電図を自動で解析します。その都度、「体から離れてください」等の音声メッセージが流れますので、AED の指示に従い行動します。心肺蘇生と AED の手順は、救急隊員と交代するまで続けます。
- ⑩ 傷病者に普段どおりの呼吸が戻って呼びかけに反応したり、目的のある仕草が認められた場合は、いったん心肺蘇生を中断して様子を見ます。再び心臓が停止して、AED が必要になることもありますので、AED のパッドは剥がさず、電源も入れたまま救急隊の到着を待ちましょう。

ショックボタンを有さない自動体外式除細動器

(オートショックAED)の認可について

2021年7月30日、厚生労働省より、ショックボタンを有さない自動体外式除細動器(以下、オートショックAED)の認可が下りました。

従来のAEDは救助者がショックボタンを押すことにより電気ショックが実施される仕様でしたが、オートショックAEDは「3秒後に電気ショックを行います」等のメッセージ音、「3.2.1」又は、「ブザー音」の後に、自動で電気ショックが実施されます。

従来のAEDについては、これまで通り、電気ショックはボタンを押すことにより実施しますが、オートショックAEDは解析を行った後に電気ショックが必要な場合、自動で電気ショックを行いますので注意が必要です。

電気ショックが行われる際には、AEDのメッセージに従い、感電しないよう患者から速やかに離れるようにしてください。

まだまだ普及率は低く、対馬市においても導入はなされていませんが、今後、導入されていく可能性もありますし、旅行先で目にするかもしれません。

オートショックAEDには、本体やケースの目につきやすい箇所にオートショックAEDロゴマークが表示されています。



オートショック AED 共通ロゴマーク

※JEITA(電子情報技術産業協会)が定めた共通ロゴマークでオートショック AEDであることを示します。

新型コロナウイルス感染症流行期の一次救命処置

1. 基本的な考え方

◆心肺蘇生はエアロゾル(ウイルスなどを含む微粒子が浮遊した空気)を発生させる可能性がある為、新型コロナウイルス感染症が流行している状況においては、すべての心停止傷病者に対して感染の疑いがあるものとして対応します。

◆成人の心停止に対しては、人工呼吸を行わずに胸骨圧迫と AED による電気ショックを実施します。

◆子供の心停止に対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身に付けており、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施します。

※子供の心停止は窒息や溺水など呼吸障害を原因とすることが多く、人工呼吸の必要性が高い。

2. 新型コロナウイルス感染症流行期の一次救命処置の手順

【安全の確認】

- ・自分がマスクを正しく着用できていることを確認しましょう。
- ・人数に余裕がある場合、通報や救命処置を行わない人は、窓を開けるなど部屋の換気を行ったり、大人数で密集しないように配慮しましょう。

【反応の確認】

- ・顔をあまり近づけすぎないようにして、傷病者の肩を優しくたたきながら大声で呼びかけます。

【119 番通報・AED の要請】

- ・非流行期と同様に対応します。

※AED 使用によるエアロゾル発生に伴う感染のリスクは高くない。

【呼吸の観察】

- ・呼吸を確認する際に、顔をあまり近づけないようにします。

【胸骨圧迫】

- ・傷病者がマスクをしていれば、外さずそのままにして胸骨圧迫を開始します。
- ・傷病者がマスクをしていなければ、胸骨圧迫を開始する際に、マスクやハンカチ、タオル、衣服などで傷病者の鼻と口を覆いましょう。

【人工呼吸】

- ・成人に対しては、人工呼吸を行わず胸骨圧迫のみを継続して行います。
- ・小児に対しては、講習を受け、人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施します。

【AED の使用】

- ・非流行期と同様に対応します。

【救急隊への引き継ぎ後の対応】

- ・傷病者を救急隊に引き継いだ後は、すみやかに石鹸と流水で手と顔を洗いましょう。
- ・手を洗うか消毒するまでは、不用意に首から上や周囲を触らないようにします。
- ・傷病者に使用したマスクやハンカチは、直接触れないようにして廃棄してください。